

瀬田川及び天ヶ瀬ダム再開発環境WGの設立趣意について

設立趣意書(修正案)

瀬田川改修及び天ヶ瀬ダム再開発事業による環境影響については、これまで淀川水系河川整備計画基礎案において、環境に関する調査検討項目として、瀬田川改修事業については、

1) 瀬田川下流(瀬田川洗堰から天ヶ瀬ダムまで)の流下能力の増大方法を環境、景観の両観点から検討

天ヶ瀬ダム再開発事業については

2) 放流方法の変更に伴う環境への影響についての調査・検討を行う。

3) 貯水池運用の変更に伴う環境等の諸調査を行う。

4) 土砂移動の連続性の確保する方策の検討を行う。

を掲げ、調査検討を進めてきました。

その結果、平成 17 年 7 月 1 日に発表した「淀川水系 5 ダムについての方針」においては、天ヶ瀬ダム再開発による環境への影響としては、

放流能力の増大による低周波音の拡大

下流河川の流況の変化

貯水池水位の変動幅の増加 等

が考えられ、より詳細な検討を継続して進める必要があるとしています。

本ワーキンググループでは、その中で特に「貯水池水位の変動幅の増加」によるダム湖内やダム湖周辺の環境への影響瀬田川洗堰下流から天ヶ瀬ダム湖周辺までの自然環境についての現況の評価、併せて天ヶ瀬ダム再開発に係わる影響及びその具体的な低減策等について、専門家による指導、助言を頂き、天ヶ瀬ダム再開発事業における環境影響評価についてとりまとめることを目的とします。

また、継続実施している瀬田川下流河道掘削についての指導・助言を行うこととします。

ゴシック体(波線) : 修正箇所